

# サッカーにおけるゴールキーパーのディストリビューションに関する研究

The research of a distribution about goalkeepers of soccer.

1K06B075

指導教員 主査 堀野博幸先生

川合 正紘

副査 広瀬統一先生

## ．序論

現代のサッカーでは、ゴールを守るというキーパーの基本的役割以上に、ゴールキーパーからの攻撃参加が、チームの勝利へと繋がると考えられている。そこで主なゴールキーパーの攻撃参加として考えられる、ディストリビューション（配球）を研究することとした。大学生のトップレベルと、世界のトップレベルのディストリビューションの違いを比較し、有効なディストリビューションを抽出し、ゴールキーパーの理想的でゴールを奪うことに対し、効率的な攻撃参加の仕方を提示したい。

## ．方法

方法としては、ゴールキーパーからのディストリビューションを大きく、オープンプレー、セットプレー（ゴールキックやフリーキック）の2種類に分けて分類。その中で、オープンプレーに関しては、ボールを保持した位置、保持時間、ディストリビューションした位置、ディストリビューション方法、ディストリビューション先 成功・不成功という6項目で分類した。セットプレーに関しては、ディストリビューションした位置、ディストリビューション先、成功・不成功という3項目で分類した。

## ．結果

セットプレーにおけるディストリビューション成功率は、大学レベル 18.54%、世界レベルが 25.32%と世界レベルが大学レベルを上回っている。オープンプレーにおけるディストリ

ビューション成功率では、大学レベルが 42.35%、世界レベルが 47.26%と、かなり拮抗した値が出た。また保持時間別で見ると、7秒以上保持と時間を掛ければかけるほど成功率が下がり、逆にワンタッチプレーなどの保持時間の少ないものほど成功率は上がった。

## ．考察

保持時間別で見ると、大学レベルと世界レベルでは、全く逆の結果が出ていて、とても興味深い。大学レベルのゴールキーパーの保持時間の長さは大きな課題である。成功確率から見ても、ディストリビューションを行うまでの間に、時間を掛けることは望ましくない。どれだけ世界のトップレベルが、シンプルで有効的なディストリビューションを心掛けているかという事が、如実に表れている。

## ．まとめ

保持時間が短い程、成功確率が高いのは結果からも顕著に表れており、世界レベルのゴールキーパーとの違いの差を見るからに、早急な対応が必要である。ボールを受けて、出し手を探し、ディストリビューションを行うという一連の動作を素早く行うため、状況判断能力の向上が望まれる。

またロングボールのキック技術向上も求められる。セットプレーにおいて、ディストリビューション成功率が 10%台と低いのは、せっかくのチャンスを台無しにしている。ゴールキーパーから攻撃が始まるということを考

えれば、ゴールキックなどのプレスキックの成功確率向上の為、ロングボールのキック技術向上は必須である。